Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 19第29号
2019年（令和元年） 11月1日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

10/17~10/23のNYMEX・WTIは、53.31～55.97ドルの範囲で推移した。

10月24日は、前日の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が6週ぶりの取り崩しになったことを好感し、続伸した。ただ、米国耐久財受注額・欧州景気指数の不調が上値を抑えた。12月限終値は前日比0.26ドル高の56.23ドル。

週末25日は、EIAの米国原油在庫の減少やOPECプラスの減産強化の観測等今週の需給緩和感の後退を好感して、4日続伸した。ベーカーヒューズ社発表の米国稼動石油掘削機は696基で前週比17基減と、3週ぶりの大幅減少も上昇要因となった。12月限終値は前日比0.43ドル高の56.66ドル。

週明け28日は、朝方、米中貿易協議の進展の報道で、買いが先行したものの、その後、先週の高値の反動で、利益確定の売りが広まり、5営業日ぶりに反落した。12月限終値は前週末比0.85ドル安の55.81ドル。

29日は、ロシア・エネルギー省高官のOPECプラスの減産強化は時期尚早との発言、翌日発表予定のEIA米国原油在庫週報の積み増し予想により、続落した。12月限終値は前日末比0.27ドル安の55.54ドル。

30日は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫は前週比750万バレル増と市場予想（同50万バレル増）を大きく上回り2週ぶりの積み増しとなり、3日続落した。12月限の終値は前日比0.48ドル安の55.06ドル。

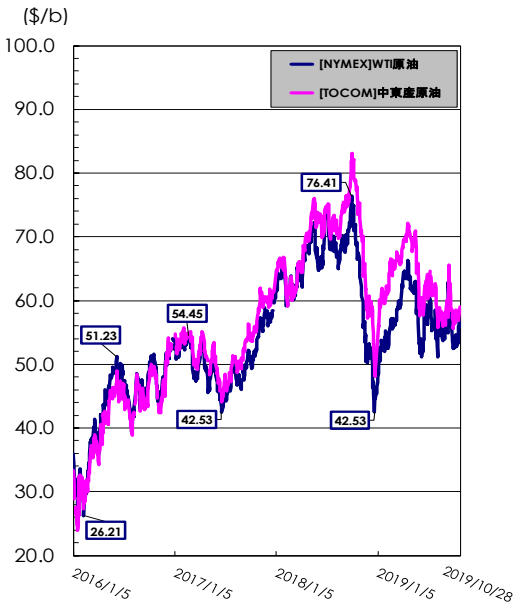
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は10月17日～23日の間58.80～59.50ドルの範囲で推移した。10月24日61.20ドル、25日61.00ドル、28日62.10ドル、29日61.40ドル、30日59.80ドルで推移した。

為替は10月17日～23日の間108.41～108.74円の範囲で推移した。10月24日108.68円、25日108.74円、28日108.80円、29日109.00円、30日108.87円で推移した。

財務省が10月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格は、43,760円/klで、前旬比593円高、ドル建て64.52ドルで前旬比0.75ドル高。為替レートは1ドル/107.84円だった。

そのような中で、10月28日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽は同0.2円の値下がり、灯油は同2円の値下がり（18㍑ベース）だった。ガソリン・軽油・灯油ともに3週連続の値下がりだった。この週（10月第4週）の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げだった。

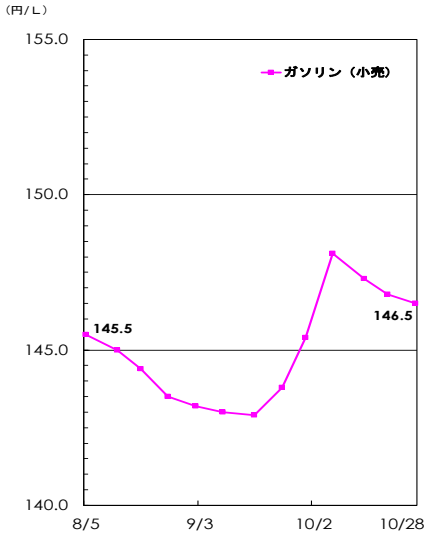
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	10/20 ~ 10/26	3,132	▲ 144	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	80.0	▲ 3.7	➡ －
需給	原油在庫量	（千kl）	10/26	11,793	▲ 163	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	10/28	58.98	▲ 1.40	▼ -16.0
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	10/28	55.81	▲ 2.50	▼ -11.2
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	10月上旬	64.52	▲ 0.75	▼ -14.67
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	43,760	▲ 593	▼ -12,474
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	107.84	▼ -0.22	▲ 5.06
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	10/28	109.80	▼ -0.28	▲ 3.16



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/20 ～ 10/26	770	▼ -53	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	860	▲ 251	▲ –
	輸出		〃	23	▼ -107	▲ –
	在庫		10/26	1,506	▼ -114	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/22 ～ 10/28	57.3	▲ 0.7	▼ -14.7
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/22 ～ 10/28	54.7	▼ -0.3	▼ -11.1
		(TOCOM/中部)	10/28	56.0	➡ 0.0	▼ -10.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/28	146.5	▼ -0.3	▼ -13.1

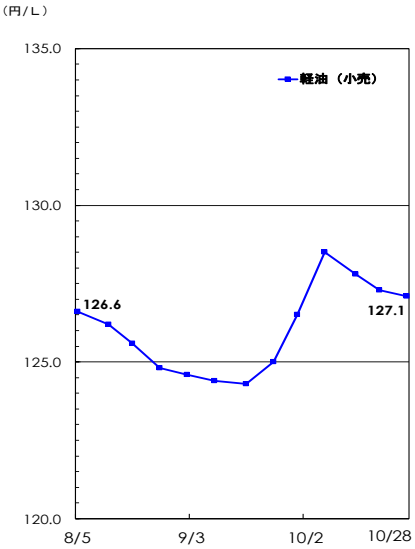
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

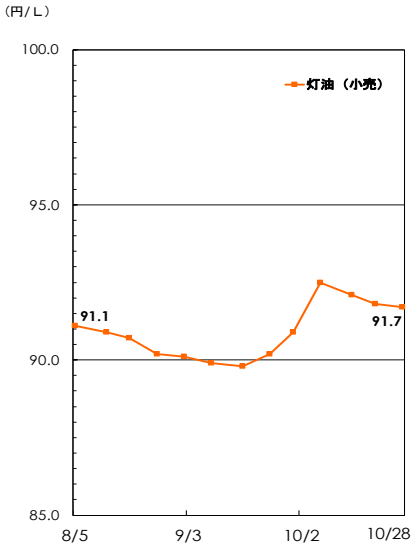
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/20 ～ 10/26	706	▲ 12	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	644	▲ 122	▼ –
	輸出		〃	82	▼ -104	▼ –
	在庫		10/26	1,342	▼ -20	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/22 ～ 10/28	59.9	▲ 0.9	▼ -14.3
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/22 ～ 10/28	60.9	▼ -0.4	▼ -12.3
		(TOCOM/中部)	10/28	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/28	127.1	▼ -0.2	▼ -11.0

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/20 ～ 10/26	260	▲ 59	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	176	▲ 98	▼ –
	輸出		〃	40	▲ 40	▲ –
	在庫		10/26	2,796	▲ 43	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/22 ～ 10/28	59.6	▲ 0.8	▼ -13.6
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/22 ～ 10/28	58.3	▲ 1.1	▼ -13.3
		(TOCOM/中部)	10/28	60.0	▲ 1.8	▼ -12.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/28	91.7	▼ -0.1	▼ -8.0



■ 関連情報

1　海外/原油

10月30日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫は前週比750万バレル増と市場予想（同50万バレル増）を大きく上回り2週ぶりの積み増しとなり、3日続落した。ただ、ガソリン在庫は300万バレル減、中間留分も100万バレル減と取り崩しになったことから、米国の需給緩和懸念を和らげた。また、チリ政府が来月中旬のAPEC首脳会議を中止したことから、その際書名予定の米中貿易協議の部分合意の取り扱いについて、懸念が出たことも値下がり要因となった。12月限の終値は前日比0.48ドル安の55.06ドル、1月限の終値は前日比0.58ドル安の55.10ドル。

EIAによると、10月28日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.2セント値下がりの1ガロン2.596ドル（75.2円/㍑）、ディーゼルは同1.4セント値上がりの3.064ドル（88.8円/㍑）となった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2019年10月20日～10月26日に休止したトッパー能力は35.6万バレル/日で、前週に対して2.9万バレル/日減少した（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は313.2万klと、前週に比べ14.4万kl増加。前年に対しては0.0万klの減少。トッパー稼働率は80.0%と前週に対して3.7ポイントの増加、前年に対しては0.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.4%減、ジェット/14.8%減、灯油/29.2%増、軽油/1.8%増、A重油/1.2%減、C重油/15.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比0.0万kl減）。軽油の輸出は8.2万kl（前週比10.4万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比ではジェット、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリンが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は86.0万 kl（対前週41.3%増）と2週振りで増加となり、10週連続で100万klを下回った。ジェット0.6万kl（対前週77.8%減）、灯油17.6万kl（対前週126.4%増）、軽油64.4万kl（対前週23.3%増）、A重油15.5万kl（対前週20.6%減）、C重油16.9万kl（対前週20.1%増）。

（単位：千KL）

	今週 (10/20 ~ 10/26)	前週 (10/13 ~ 10/19)	前週比	
ガソリン	860	609	▲ 251	(41%)
ジェット燃料	6	26	▼ -20	(-77%)
灯油	176	78	▲ 98	(126%)
軽油	644	522	▲ 122	(23%)
A重油	155	196	▼ -41	(-21%)
C重油	169	141	▲ 28	(20%)
合　計	2,010	1,572	▲ 438	(28%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

10月26日時点の在庫は、ガソリン、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは150.6万kl、前週差11.4万kl減。前年に対しては14.4万kl少ない。

灯油は279.6万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては17.4万kl多い。

軽油は134.2万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては11.9万kl少ない。

A重油は72.3万kl、前週差0.0万kl増。前年に対しては0.9万kl少ない。

C重油は194.3万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては5.6万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (10/26)	前週 (10/19)	前週比	
ガソリン	1,506	1,620	▼ -114	(-7%)
ジェット燃料	942	916	▲ 26	(3%)
灯油	2,796	2,753	▲ 43	(2%)
軽油	1,342	1,362	▼ -20	(-1%)
A重油	723	723	➡ 0	(0%)
C重油	1,943	1,927	▲ 16	(1%)
合　計	9,252	9,301	▼ -49	(-0.5%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

10月22日～28日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、10月22日～28日の間、ガソリン111円台でほぼ横ばい、軽油59円台で横ばい、灯油59円台で値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン112円台でわずかに値上がり、軽油61～62円台で値上がり、灯油54～58円台で激しく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～109円台で大きく値上がり、軽油60円台でわずかに値下がり、灯油57～58円台で値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

10月22日～28日の製品スポット市況は、10月15日～21日平均と比べ、ガソリンと軽油の先物の値下がりを除いて、他の油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格（10/22～10/28千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は2.7円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.3円の値下がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

11月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

（RIM）　（単位：円/㌔）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週（10/22 ~ 10/28）	前週（10/15 ~ 10/21）	前週比
スポット価格	レギュラー	57.3	56.6	▲ 0.7
	灯油	59.6	58.8	▲ 0.8
	軽油	59.9	59.0	▲ 0.9

（TOCOM）　（単位：円/㌔）

[期近物/終値〔平均〕]		今週（10/22 ~ 10/28）	前週（10/15 ~ 10/21）	前週比
先物価格	レギュラー	54.7	55.0	▼ -0.3
	灯油	58.3	57.2	▲ 1.1
	軽油	60.9	61.3	▼ -0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値　（10/22～10/28実績値）　（単位：円/㌔）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.7	▼ -0.3	▲ 0.2
灯油	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 1.0
軽油	▲ 0.9	▼ -0.4	▲ 0.2
A重油	▲ 1.0		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

10月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の146.5円、軽油は同0.2円安の127.1円、灯油は18㌔ベースで同2円安の1,650円（1㌔ベースでは同0.1円安の91.7円）。ガソリン・軽油・灯油ともに、3週連続の値下がり。都道府県別には、値上がりが8県、横ばいが10都道府県、値下がりが29府県となった。全国最安値は鳥取県と滋賀県の141.0円（前週比各々0.2円高・横ばい）、最高値は長崎県の156.9円（同横ばい）。最も値上がりしたのは0.2円高の鹿児島県（155.2円）・福島県（148.7円）・鳥取県（141.0円）、横ばいは長崎県（156.9円）等10都道府県、最も値下がりしたのは2.7円安の徳島県（141.8円）だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価AA格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。次週（11月5日）のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

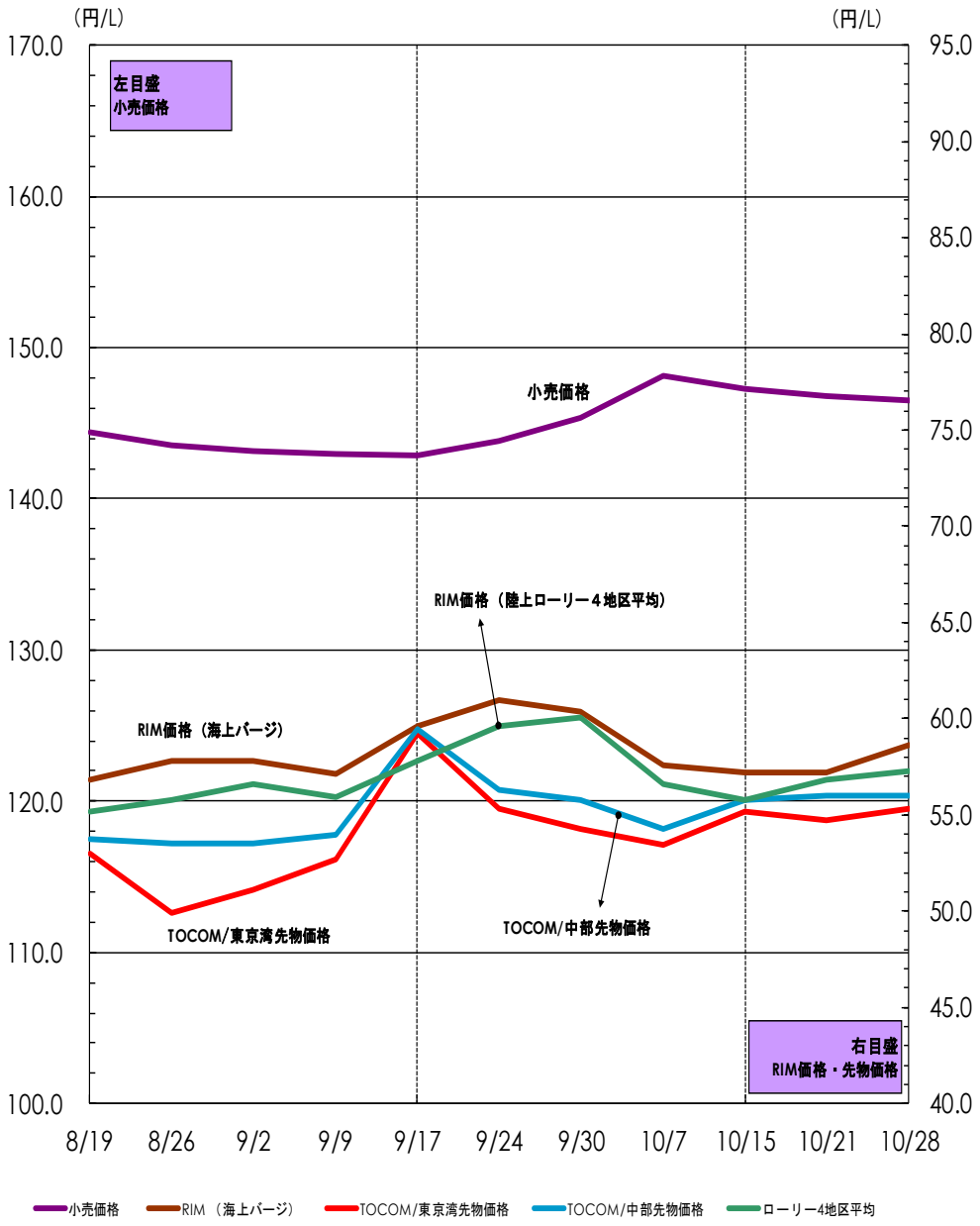
（単位：円/㌔）

（資エ庁公表）[週動向]		今週（10/28）	前週（10/21）	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	146.5	146.8	▼ -0.3	08/8/4	185.1
	灯油	91.7	91.8	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	127.1	127.3	▼ -0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/8/19　～　2019/10/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2019第30号）の公表は、11/8（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成31年3月末現在）は、7月31日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。